春季セミナー開催に寄せて

東京矯正歯科学会

会長　清水　典佳

草木も一斉に芽吹いて春たけなわになりましたが，皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

東京矯正歯科学会では恒例の春季セミナーを迎えることとなりました。今回のテーマは「混合歯列期の矯正治療―効果的な結果を得るために―」です。

混合歯列期の矯正治療は，顎骨の成長コントロールを行ううえで大変重要ですが，個人の成長を詳細に予測できないために，計画通りに治療が進まないこともあります。特に反対咬合治療では，改善した反対咬合が下顎の成長とともに後戻りし，骨格性の下顎前突に移行することもあり，このような症例を矯正治療単独で行うことで，治療期間が長期にわたるばかりでなく，不良な結果を招き，結局，顎変形症として再治療することになります。

一方，混合歯列期に空隙を獲得し非抜歯治療に誘導することも行われますが，空隙獲得にも限界があり，過剰に行えば冗長な治療期間のみならず，上下顎前突や治療後の後戻りを招くことになります。

混合歯列期では顎骨や歯列が常に変化しており，それを考慮した治療計画を立案する必要があるため，混合歯列の治療で留意すべきことを再認識しようとの考えからこのような企画になりました。

今回のセミナーでは，混合歯列期の治療に大変経験豊富なお二人を講師としてお招きしております。仙台で開業されている伊藤智恵先生には，失敗事例から学ぶ確実で安全な成長期の矯正治療について，また，大阪で開業されている井上裕子先生には，混合歯列期の矯正治療の特殊性と理想像についてご講演をいただく予定です。

混合歯列期の矯正治療の良し悪しが，その後の治療に大きく影響する症例も多いため，このセミナーを通して混合歯列期の矯正治療を再考していただければ幸いです。

多数の方々にご来聴いただきますよう，心よりお待ち申し上げております。

日本矯正歯科学会認定医の方は，当日，IDカードをお持ち下さい。セミナー参加者は，研修ポイント５点が加算されます。

（有楽町マリオン11階）（Tel.03-3284-0131）
（Fax.03-3213-4386）

有楽町朝日ホール
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン11階
TEL（03）3284-0131

東　京　矯　正　歯　科　学　会
東京都豊島区駒込 1-43-9（〒170-0003）
一般財団法人口腔保健協会内
ＴＥＬ（03）3947-8891
ＦＡＸ（03）3947-8341

平成27年

東京矯正歯科学会
春季セミナー

混合歯列期の矯正治療
―効果的な結果を得るために―

モデレーター：新井　一仁　学術委員長

講　演　者：伊藤　智恵　先生

井上　裕子　先生

日時・平成27年４月16日（木曜日）
午後６時より

場所・有楽町朝日ホール

当日会費・無　料（会員,会員同伴のコデンタルスタッフ）
¥3,000（非会員）

伊藤　智恵　先生

1985年　東北大学歯学部卒業
　　東北大学歯学部歯科矯正学講座入局
1988年　同助手
1990年　伊藤矯正歯科クリニック開設　管理者（院長）
　　日本矯正歯科学会認定医
1990年～　下顎前突研究会・口腔成育研究会世話人
2006年　日本矯正歯科学会専門医
2007年　家族心理士・家族相談士資格認定機構認定家族相談士
2008年　診療所新築移転開設　管理者（院長）
　　現在に至る

失敗事例から学ぶ
－確実で安全な成長期の矯正歯科治療とは－

「効果的な結果を得る」ということは，「治療の質」を向上させるということです。質とは，治療目標の達成や望ましい結果の実現の可能性をどれだけ高くするか，その時々の専門知識に合致しているか，それらの度合いであり，治療目標の達成度によって評価されます。よって，質の向上の方策とは，エクセレントな症例を量産することももちろん魅力的ですが，失敗を限りなく回避し，当たり外れなく許容水準以上の結果を確実にもたらすことこそが重要だと考えています。

先人たちは，治療の質を向上させるために，治療の失敗を招いた要因を把握し，失敗事例から学んだ不備を是正し，それらを臨床にフィードバックして新たな失敗を回避する，いわば医療版「カイゼン」活動を実行してきました。それとともに，どうすれば失敗事例を救済し，矯正歯科への医療不信をその患者に残さないようにできるかという努力も重ねてきました。その不断の努力の結果，現在私たちは，多くの失敗を回避できる知識と技術を手に入れられる環境にあります。

一方，確実な矯正歯科治療結果を得たいのにそうではなさそうだと，他施設での治療に不満や不具合を感じている患者からセカンドオピニオンを求められる機会が増加してきました。そのなかには，明らかに誤った治療計画や，患者が望まない治療方針を採用された患者，症例分析の不備による問題点の認識不足で難易度が増してしまった患者，成長分析や難症例の鑑別診断の不備で治療計画に無理を生じている患者，マルチブラケット治療のタイミングが尚早で治療期間や術後安定性に問題が生じている患者，治療計画不在で治療メカニクスの意図が判断できない状況の患者などが少なからず含まれていました。

矯正歯科治療は対症療法なので，常に不確実性が伴い，失敗症例に至る可能性もあり，望んでいた治療目標が達成できない場合があることは認識しなければなりません。でも，すでに先人たちが経験し，改善したはずの失敗をなぞることほど，患者・術者ともに不幸なことはありません。

本講演では，臨床現場で遭遇した失敗事例に共通する失敗原因を把握し，失敗を未然に防いで適切な矯正歯科治療を行うために配慮したい点を整理し，確実で安全な矯正歯科治療とは何かをご一緒に考えたいと思います。

井上　裕子　先生

1980年　大阪大学歯学部卒業
1980年　大阪大学歯学部矯正歯科学講座入局
1989年　大阪大学博士号取得
1990年　イノウエ矯正歯科開設
日本矯正歯科学会認定医，指導医，専門医
MOrthRCS（Ed)（イギリス王立大学認定矯正専門医）
著書：『どうしてむしばになるの』（岩崎出版）
　　『口腔の成育をはかる』（分担執筆，医歯薬出版）
　　『歯育て支援Q&A』（クインテッセンス出版）
　　『子どもの不正咬合』（クインテッセンス出版）

混合歯列期の矯正治療の特殊性と理想像
－子どもたちの幸せに貢献するために－

近年，矯正治療は急速な勢いで普及してきているように見受けられます。たいへん喜ばしいことですが，その一方で問題も生じてきているようです。特に，子どもの矯正治療に関しては，少子化に伴い保護者の子どもの歯並びへの関心は高まり，混合歯列期の矯正治療から，さらには乳歯列期へとエスカレートしていき，情報が溢れるなかで子どもや保護者が翻弄されている姿をみかけます。

混合歯列期の矯正治療は，まさしく「諸刃の剣」であると思っています。その二面性について列挙してみます。

1：一見簡単そうに見えて，実は奥が深く難しい。

矯正歯科臨床に携わるようになって30年以上が経過した今日，エッジワイズ法による永久歯列の治療よりも，混合歯列期の治療のほうがむしろ難しいとさえ感じています。遺伝的要素がどれだけ関与しているのか，今後の成長発育はどうなるのか，習癖の影響はどれくらいか，親子の協力は得られるのかなど，予測不能な要素が治療成績に関わってくるからです。

2：有効性に賛否両論ある。

「混合歯列期の矯正治療は，抜歯や外科的矯正治療の確率を下げることができ，非常に有効である」と臨床医として感じている一方で，「一期治療の有効性は明らかではない」という論文が近年多く出されてきています。

3：子どもの心理面への影響は，天と地の差がある。

矯正治療によって得られた笑顔によって，その後の子どもの性格形成に大きなプラスになるばかりでなく，成功体験は子どもの自信を育むことすらできる反面，ひとつ間違えると子どもの心までをも傷つける凶器とさえなりえます。子どもの人生を大きく変える可能性があるといっても過言ではないでしょう。

そこで，本講演では改めて混合歯列期の矯正治療のもつ特殊性について，矯正歯科臨床の観点からだけでなく，さまざまな観点から検討してみたいと思います。

そして，明確な答えを見いだすことは非常に難しいと思われますが，効果的な結果を得るための理想的な姿について私見を述べさせていただき，矯正歯科医として，少しでも子どもたちの幸せに貢献できるようにするためには，どうすればよいのかを皆さんといっしょに考えていきたいと思っております。

今後の学術大会，セミナーのご案内

●第74回東京矯正歯科学会学術大会
日時：平成27年7月16日（木）10時～
会場：ベルサール新宿グランド

●平成27年度秋季セミナー
日時：平成27年11月5日（木）18時～
会場：有楽町朝日ホール

詳細は決まり次第学会ホームページに掲載いたします